

科目名		建築材料			
担当教員		星野 麻子		実務授業の有無	有
対象学科	建築デザイン科	対象学年	1	開講時期	後期
必修・選択	必修	授業形式	講義	時間数	16時間
授業概要、目的、授業の進め方	建築物を構成する様々な材料の種類と性質を理解し、環境に応じた快適な空間を作る為の材料の基礎知識を学ぶ。後期では身近な材料の詳しい特性や各部の名称などを学び、それらが建築物にどのように使われているのかを学ぶ。各項目について理解状況の確認の為テストを行う。				
学習目標 (到達目標)	鋼材と焼成品、ガラス、石材、左官材料、ボード類等についてその特性を理解する。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	図説 やさしい建築材料・配布プリント				
NO.	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	鋼材の性質		鋼材を調べる方法として大切な応力度-ひずみ度曲線について学び、グラフの大切なポイントを習得する。		
2	鋼材の腐食と防食		鋼材の大きな短所である腐食について学び、それを防ぐための防食方法について学ぶ。		
3	鋼材の規格・非鉄金属		JIS等で定められている記号や種類等を学び、鋼材と同じような使われ方をしている鉄鋼以外の金属について学ぶ。鋼材について習得状況確認の為、評価テスト1を行う。		
4	焼成品 タイル・れんが・瓦・衛生陶器		各種焼成品についての種類・特徴・用途を理解する。		
5	ガラス		各種ガラスについての種類・特徴・用途を理解する。		
6	石材		各種石材についての種類・特徴・用途を理解する。 NO. 4・5・6について習得状況確認の為、評価テスト2を行う。		
7	左官材料		各種左官材料についての種類・特徴・用途を理解する。		
8	ボード類		各種ボード類についての種類・特徴・用途を理解する。		
9	その他の材料		各種その他材料についての種類・特徴・用途を理解する。		
10	部位別・性能別材料		各種部位別・性能別材料についての種類・特徴・用途を理解する。 NO.7・8・9・10について習得状況確認の為、評価テスト3を行う。		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
評価テスト1 30 %	評価テスト2 30 %	評価テスト3 30 %	取組姿勢 10 %	建築材料は建築士試験に於いてしっかりと習得できていれば比較的点数の取りやすい部分です。身近な建築物がどのような材料で出来ているのか、またその材料の特性を生かすためにはどのような工夫があるのかも併せて覚えましょう。材料が使用されているところを頭に思い浮かべて楽しみながら学習しましょう。	
成績評価基準は A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
実務経験教員の経歴		住宅設計に11年間従事			